

巻頭言

平成 29 年度は、平成 23 年に法人化してから 6 年を経て、2 クール目の中期計画期間が開始された年に当たります。新たな目標、新たな年次計画の下で大学が動き出しました。近年続いている文部科学省主導の大学教育改革に追われながらも、今後の 6 年間は自大学固有の課題解決も含めて全教職員の力を結集して改革・改善に臨まねばならないと考えています。

全国的な動きでは、漠としていた入試改革の姿が平成 29 年度には明らかになってまいりました。入試改革の重要性は、高等学校までの知識の詰め込み型教育の改革とそれに継続する大学教育改革、それを中継する大学入試改革という論理で説明されています。学力の 3 要素を考慮した入試が検討され、選択問題だけでなく記述式問題が必須との考えでその方法が検討されており、また英語においては、聞く・話す能力を業者委託にて試験することが議論の中心となっています。本学では臨時に入試改革ワーキングを設けて待機していましたが、やっと検討する材料が見えてきたといった状況です。本学独自の課題として推薦入試の精度を上げることや、AO 入試の是非などにも取り組む必要があり、今後は本学でも入試改革の議論が活発になることが予想されます。入試に関連しては、本学を取り巻くローカルな範囲での学生確保対策にも焦点を当て、高校の進路指導教員に意見をうかがうなどの取り組みを強化いたしました。

平成 29 年度の本学の大きな出来事として助産師養成課程設置の文科省への申請がありました。幸い認可が下り、次年度から大学院において助産師養成を開始します。3 つの看護職能を育成できる大学となった記念すべき年になりました。また開学以来初の試みとして日中韓看護フォーラムを金沢市内で開催しました。アジアの MOU 締結校との交流実質化の第 1 歩、そして助産師教育開始のキックオフという意味を込めました。

前年度開始したカリキュラム改革は今年度の検討で大幅に進み、初学年に新科目「アカデミックリテラシー」を設けます。またディプロマポリシーに対する各科目の位置づけと教育的役割を明確にするためのカリキュラムツリーとマップを明示しました。今後はこの意義を全教員に周知徹底することが課題です。一方で、カリキュラムの改革効果は教育の質次第では半減します。今年度から教育の質保証と銘打った取り組みを開始し、学生の意見を取り入れた教育改革につながる一歩を踏み出しました。

その他、本学では学部・大学院における本来の教育研究や、地域ケア総合センター、看護キャリア支援センター、教員の個別ゼミ等による地域貢献活動等において例年通りあるいは例年の活動を改善して真摯に向き合いました。この年報には、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等が、正直にほぼ網羅的に掲載されています。

皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> にもアクセスしてみてください。本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 18 回入学式
(平成 29 年 4 月 5 日)



夏のオープンキャンパス
(平成 29 年 7 月 15 日)



第 13 回夏期アメリカ看護研修
(平成 29 年 9 月 1 日～ 9 月 14 日)



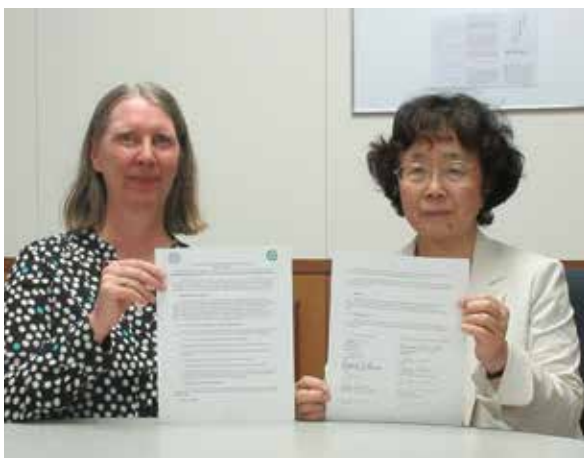
春期韓国看護文化研修
(平成 30 年 3 月 18 日～ 3 月 25 日)



JICA 日系研修
(平成 29 年 6 月 30 日～ 7 月 10 日)



JICA 青年研修
(平成 29 年 11 月 29 日～ 12 月 12 日)



ワシントン大学との学術協定の更新
(平成 29 年 7 月 24 日)



日中韓看護フォーラムいんいしかわ
(平成 29 年 8 月 11 日)



管理者経営研修
(平成 29 年 9 月 29 日)



認知症看護認定看護師教育課程
開講記念特別講演 (平成 29 年 7 月 8 日)



第 14 回卒業式
(平成 30 年 3 月 17 日)